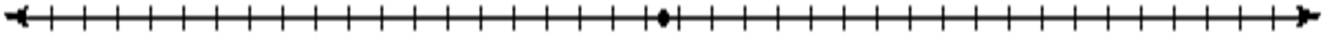


私たちにできることは？

政治と教育について、語り合しましょう



まず自己紹介から…

- ◆大学で英語の教員をしています。今の時期には授業がなくなるので参加しました。子どもは小学校5年生。PTAの活動に実際にはなかなか参加できないのですが、見てみると役員の選出もあまりうまくいってないみたいです。働くお母さんが増えていています。今、PTAはうまく機能しているのでしょうか。役員・委員の押し付け合いがあって、ではいったいPTAの存在意義ってなんだろうと思ってしまう。「PTAなんて、なくたっていいんじゃないの？」と夫は言いますが、私はそうではないと思っています。でも実際に時間をさける人がずいぶん少なくなっていて、形だけの存在になっているような気がします。お知恵を拝借できるのではないかと考えて今日は参加しました。いろいろ話せばスッキリできるのではないかとも思いました。
- ◆高校の教員をしていました。退職して11年たちます。世界史を教えていました。その現役の頃、松P研からは教員に対する痛烈な批判がいつもありまして、そういう批判を頭に置きながら学校での活動をする際に、保護者の視点を思い返しながらしてきました。途中には高校の学園闘争の時期もありまして、高校の子どもたちから受けた鋭い教育批判も念頭に置きながら、やってきました。教員としては女性の解放と教育労働を自分のテーマとしてやってきたのですが、退職直前に松戸市の教育改革市民懇話会に公募委員として入りました。でも、全然市民の声を聞いてくれなかったという経験がありました。その時一方では教科書問題というのが起こって、「新しい歴史教科書をつくる会」という右派のグループが教科書の中身を変えようという猛烈な運動を展開したけれど、それに危機感をもって「松戸の教育を考える市民フォーラム」をつくりました。今、力尽きたという感じでそろそろおしまいという時期にあります。というわけで歴史教科書問題が退職後の私の大きなテーマです。
- ◆私は、前回の会報で報告された常盤平母の講座の立ち上げ人の一人です。人間とは何かということを知るために、いろんな先生をお呼びして、母の講座を行ってきました。「真実をもとめなさい」と、そういう透き通った眼鏡をかけるようにと森口清先生に言われたんです。つらい日もあってなかなかできないこともあるけれど、なるべくそうありたいと努力してきました。生業は書道の私塾を40年やっています。小さな子どもたちが見る間に感動するほど上手になる。その喜びを背負いながら、今も続けています。
- ◆何となくこの頃、自分も年が年だから、教育問題から足を洗おうかなと思っていたのだけれど。やはり教育問題をやっているところは皆高齢化していて、現役の教育に携わっている人、親たちが見えない。教育現場の話が私からは縁遠くなってきて、問題に疎くなってきた。でも教育問題って一番大事じゃないかと思う。子どもが育って、人生をつくって、地域をつくって、国をつくって、世界と交流

していくという、人間を育てる大事な時期がどうなっているのかというのが全然見えなくなっている。私が子どもを育てている時、PTAはそのためにあるんだと頑張ってきた、その時代の教育問題に対する取り組みが私の中ではずっとある。時代が変わってもそれは基本的には変わらない中身だと思う。今、教育問題がこんなに親から遠くなってしまっているのかとても疑問。このままでいいはずがないと思うけど、どうしたらいいのか。それが見つからない。若い人との接点がないので、子育てをどのようにしようと思っているのか、見えてこない。松P研は大事な場所。若い人たちにPTAの問題について呼びかけて、参加してもらえそうな具体的なノウハウをみんなで工夫する必要があると思います。



- ◆いつの間にか孫ができて…という年になってしまったのだけれど、いまだに教育にこだわり続けているのは、今の政府が何を考えているのかということが、すぐ教育の場に影響してくるから。今でいえば、道徳の教科化とか、教育委員会制度の見直しとか、そういう政治の動きがもろに教育に出てくる。政治と教育を切り離して考えることはできない。親だった頃はそういうことになかなか考えが及ばなかった。目の前の子どもたちがどうなっているか、どのように子どもを育てていけばいいのかとか、考えていた。でも松P研に参加することで、もっと広い視野で考えていかなくてはいけない。しかも子育ての場所から出発しなくてはいけないなあ、そういうことを学んだ。そういう学びの場が松P研であり、PTAだと思っています。そのPTAが形骸化して学ぶ場になっていない。私が今非常に関心をもっているのが子どもの貧困なのだが、それについてもPTAで取り組めることがあると思っています。
- ◆高2、中1の子どもがいます。上の子が小学生の時にPTA会長をしていました。今思うと、校長親衛隊をまっしぐらにやっていたかなあと。一生懸命やっていたつもりなんだけど、教育の現場についてはそこまでの問題意識はありませんでした。反省しています。同じクラスに不登校の子がいて、お母さんが泣く子を引っ張って学校へ来ていた。「そんなにまでして連れてこないといけないの？」と聞いたら、「校長がうるさいから」というので、校長先生に尋ねた。そうしたら「そういうものですから。連れて来ればこちらで面倒見れますから」と。それから、多動の子が入学してきたのですが、入学に際しても学校は「面倒見きれない」と受け入れに消極的だったようです。校長先生がその子に対して相当人権侵害まがいなことを言っていたようです。「多動は遺伝」とPTAで他のお母さんに話していたり、「あんなにうるさいんだから薬を飲ませたらどうか」と母親に言ったり。いろいろ考える芽はあったんです。私自身にとって一番大きかったのは、3・11以降ですね。あの原発事故があって、校長先生に放射能被曝に関する要望をいろいろしましたが、「どこからの情報ですか？国が言っているんですか？国が言っていないことは私はできませんから」との回答。今まで子どものためと言っていたのは子どものためじゃなかったんだと、初めて気がきました。それ以降、松P研に参加するようになりました。
- ◆今、長野県に住んでいますが、別件でこちらに来ていたので、参加しました。以前柏に住んでいたのですが、2年前に長野県に移転しました。昔、柏の中学校で教師をしていました。学校の制服・ジャージや体操服の強制の問題に関心があった。長野県の公立高校はほとんど制服がありません。先日、文科省は公立小中学校を統廃合する際の基準を約60年ぶりに見直す方針を決めました。小中学校で1学年1クラスのところは統廃合しなさいよということですよ。これから相当

影響してくると思います。長野県の私が住んでいる地域周辺では、どこも小規模校。私の町では中学校が1校になってしまいました。統廃合して学校の規模を大きくすることを親も望んでいるんです。部活動などで子どもたちが少ないのは困ると。地域の学校をなくすことに親も賛成している。これは深刻な問題です。

- ◆小学校で4キロ以内、中学校で6キロ以内としている通学距離に加え、「おおむね1時間」と通学時間も示し、より遠くの学校と統合できるようにするというような見直しですね。
- ◆小さい学校は切磋琢磨していない、もまれていないからたくましく育たないと言われるんですが、本当にそうなのでしょうか。
- ◆1学年1学級だとクラスの中の間人間関係が固定されるので、いじめの問題があった時にクラス替えで問題解消するということができない。今回もそういう理由が使われている。でも、それは別の問題だと思う。
- ◆切磋琢磨というけど、そこに流れる考え方はいわゆる競争原理、その中にある価値観とはいったい何なのか。偏差値の競争原理で切磋琢磨するのか、部活動で試合に勝つために切磋琢磨するのか、競争原理の中に巻き込まれるような切磋琢磨は大きな落とし穴があるのではないか。
- ◆地域に学校があって、その地域の子どもたちが通うとか、地域の大人たちが子どもたちの育ちに積極的にかかわるかどうかが、そこが大事だと思う。学校の規模だけを論じるのはどうか。小規模校・大規模校それぞれの課題があるのなら、それに対して行政が条件整備をしていけばいい。



P T Aをやりたいと思っても余力がない

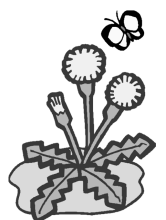
- ◆今のお母さんたち、自分の子どもが元気に学校に通っているか、いじめられないでいるか、そのことはとても気になるが、それ以外のことはなかなか話題に出せない。
- ◆P T Aに対して、教育委員会がどのような見解をもっているのか確認したい。校長会や教職員組合、教育に携わる機関の中で、P T Aに対する考え方が変化してきているのか。親たちもどのような認識をもっているのか。どういう活動をしようとしているのか。
- ◆仕事をしていると日々のP T Aの会合には出られなくて、出られる時に出ると結果報告だけで「承認願います」とみんなで拍手する。総会は仕事がある人も出られる時間帯に開かれるので。常盤平幼稚園のP T Aに入っているんなことを話し合っただけなのは、子どもの成長を親が願うのは普通だけれど、親も成長しないと子どもの成長も願えないということ。小学校に来たら、全然肩すかし食らっている感じです。P T Aは何のためにあるのかなぁと感じます。学校側も、先生方もP T Aをどのように考えているのか全然見えてこない。P T Aの役員をする人も限られてしまう。時間的に可能な人、かつ意欲のある人しかできない。仕事している人が出られるようにP T A活動を夜やるということもあるようですが、仕事を終えてから夜出かけていくのはとてもしんどくて、嫌。根本には貧困の問題があると思う。子どもの貧困が6人に1人という。P T Aをやりたいと思っても余力がない。
- ◆だから、お手伝い係になっている。お手伝いの数を増やして、1年に1回はお手伝いするという感じに。お手伝いをした、義務を果たしたという感じになっている。
- ◆働いて生活していくことで精一杯で、ご飯も十分に見てあげられない、子どもの心の中の話も聞いてあげられないで、そのまま放置していけば、子どもたちは2年3年出口を探してたむろしたり、オートバ

イ乗ったり…出口を見つけられない。

- ◆今の子どもたちの貧困の問題は深刻な状況。食事は学校の給食だけという子どもがいる。その子たちのために子ども食堂という活動をしているNPOもある。貧困は連鎖していくから、その連鎖を断ち切るために子どもたちの学習を支援していこうという取り組みもある。
- ◆子どもの貧困は、特に見えにくい。食事にも事欠くということが表に出てこない。
- ◆学校の先生は、やっぱり子どもの貧困は見えている。だけど見えても、先生が対応しきれない。限界がある。スクールソーシャルワーカーが必要だと思う。
- ◆働いていても食べていくのが危ういという状況では、PTA活動に参加できるはずがない。子どもの貧困はいろんなところに影響がある。

勉強して何か獲得できる場が学校の中があれば、 学校の中が少しはよくなると思う

- ◆お母さんたち、ひとりひとりいろんなことを考えていても、それをPTAの中で話さない。先生もかわりたがらない。
- ◆教育とは何かという根本のところにしっかりと立った先生がどれほどいるのか。国に言われたとおりに、与えられた教科書通りに教えていくという教師が多くなってきているのではないか。教師の人間的なスケールが小さく、細くなってきているような気がします。
- ◆今の政治の中で、教育がズタズタにされそう。
- ◆私たちが現役だった頃は、『親の教育権』のことをいつも言っていた。子どもの教育権は親にあり、それを学校に付託しているのだと意識。今はそういう意識はないのでしょうか。
- ◆働かないといけない人は働くしかない。でも、時間に余裕があって勉強したいと思う人たちが、勉強して何か獲得できる場が学校の中があれば、学校の中が少しはよくなると思う。
- ◆ざっくばらんにみんなが話せる場所が必要だと思う。1回やっただけではなかなか本音で語りあえるところまでいかない。むしろ、学級懇談会や学年懇談会をそういう場所にすることが重要。働いている人も参加しやすい時間帯を考えて、土曜日の午後などに学校外で地区懇談会を開く。
- ◆今、ざっくばらんに話し合うというベースもないし、時間もなし。で、悶々としている。
- ◆読み語りボランティアをしているのですが、その代表委員を引き受けるかどうか迷っている。引き受ければそれなりに自分の時間を割いて関わらなければならない。PTA委員をする人、しない人がいて、不公平感は正直言ってある。でも、それぞれの家庭のスタートラインが公平ではないのだから、やりたい人、向いている人、やれる人、いろいろ。皆がやろうと思っていてくれれば私もやっていきやすい。でも、やってくれる人がいるなら全部やってもらってしまおうと思う人もいる。それはおもしろくない。そこで悶々としている。
- ◆それは、PTAだけでなく、いろいろな市民運動の中にもある。私は一生懸命やっているのに、みんな逃げているだけではないかとか。でも、そこに集ってつながりあえる人たちがいるということはとても貴重なことで、その中でもしかしてもっと深く話せる人がいるかもしれないし、読み読みのボランティアのグループが現代の問題につながるような問題について話し合うグループに成長したり、ボランティアに参加できなくても子どもの問題で悩んでいる人とつながるきっかけができるかもしれない。



やっぱりクラスが基本 クラス懇談会の中身を変えていく

- ◆以前、柏で中学校教員をしていた時に、地区懇談会をしていました。教職員組合の先生たちと親たちで話し合うのですが、いろいろな意見を言い合えて貴重な場でした。
- ◆松戸市内でも今でも地区教育懇談会を開催している地域があります。私の住んでいる地域でも以前は開いていたのですが、中心になって運営する先生や親たちがいなくなると、なかなか新たな担い手がいなくて開けなくなりました。
- ◆やはりPTAで取り組むのがいいですね。地区委員会が地域の人たちのつながりを強めるために地区懇談会を開く。その方が先生にも声をかけやすいのではないのでしょうか。
- ◆先生たちの時間的余裕がなくなっている。それと先生方にPTAとは何かという認識がないし、上から言われたことをしっかりやるのが教師として大事なことだという意識しかないので、余計なことはしたくない。
- ◆前回の例会で話が出ていたけれど、今の若い先生はマニュアル化していると。マニュアルにないことは取り組めないのかもしれない。本当に若い先生が増えている。
- ◆私はやっぱりクラスが基本だと思います。クラス懇談会の中身を変えていく。親と子が一緒に遊ぶとか、時間と労力を必要とするけれど、担任の先生に投げかけてみる。そういう取り組みの中で、学級の中で心を許せるということが親と教師の間でできたら、そこから広がっていくと思う。
- ◆PTAの基本は学級ということを忘れてはいけませんね。
- ◆高校にも保護者懇談会がありました。他の先生たちは親と話をしなくてはならないと、とても嫌がっていました。自分が親に評価される、品定めされると思うからとても警戒する。いかに自分が立派な教師であるかということを認めてもらうために、いろいろ演説を考える。私は、自分も子どもの親であるから、同じ親としてお母さんたちと井戸端会議をしましょうという感じで、懇談会をしました。
- ◆先生のことを批判しようと思っているわけではなくて、一緒に子育てを考えたいんですというメッセージが伝われば、先生も心を許して話ができるのではないかな。



学校徴集金の滞納が増えて困っています

- ◆公立の小中学校は授業料はないけれど、父母負担金は多いですね。
- ◆今、学校だよりに、「学校徴集金の滞納が増えて困っています」と書かれています。それほど貧困が進んでいます。
- ◆どうしても必要な教材などは市の教育予算から出してほしい。父母負担金が重荷になっている家庭が多いと思う。遠足にしたって、公共交通を使うか、チャーターバスを使うかによって費用が違ってくる。父母負担をいかに軽減するかへの配慮が必要。当事者の親たちが声をあげていくことも大事。
- ◆義務教育の公費負担という原則があるのに、なぜこんなに親たちがお金を出さなくてはならないのか。それはずっと最初の頃から松P研で取り組んできたこと。
- ◆学校だよりに学校徴集金の滞納が増えて困っているということが書かれるくらいなのだから、校長先生と一緒に教育委員会に「こういう現状だから、お金を出せない家は出せないのだから、もう少し教育予算からお金を出してほしい」と要望が出せるようになるといいですね。難しいでしょうけ

どね。

- ◆市の財務課に聞くと、高齢化が進んでいるので福祉予算に圧倒的にとられていると。
- ◆工場もずいぶん撤退しているというか、経費のかからないところへ移転している。市の税収が減っているでしょうね。

**先生を雑務から解放させて
一人の生徒に向き合う時間をもう少し豊かにしてあげれば
いじめの問題は解決するのではないか**

- ◆いじめの問題に関して、学校の先生たちは毎月いじめアンケート調査をしているし、学校の中にいじめ対策組織も作らなくちゃならない。先生たちの仕事がまた増える。
- ◆今回できるいじめに関する組織は全く意味のないものだと思っている。でも、弊害もそんなにないと思う。
- ◆毎月学校が子どもたちがいじめアンケートをとっているという方が問題だと思う。
- ◆私たちが見誤ってはいけないのは、いわゆる国がやろうとしている教育改革は、軍事国家にしていくための条件整備だということ。道徳教育をしなくてはいけない、その理由はいじめと説明されている。でも道徳教育強化というのはずっと前から文科省が言ってきたことであって、いじめの事件などを利用している。
- ◆先生たちがあまり必要だとは思えないような事務に忙殺されて、子どもと向き合えない。先生を雑務から解放させて一人の生徒に向き合う時間をもう少し豊かにしてあげれば、いじめの問題は解決するのではないか。子どもの心が成長していかないという今の教育のあり方、根本的なところにメスを入れていかないと。小手先の対応だけして、本質的なところはどんどん悪い方向へ押しやられていく。子どもがかわいそう。
- ◆先生たちが職員会議で自分の意見を出せないという話をよく聞く。そこが一番問題だと思う。自分は子どもをこう育てたいとか、こういう問題がある、その解決方法はどうかとか、職員会議がそういう議論を保障していくようにしないと先生たちは委縮していく一方だと思う。国の政策に則って教育をしていけばいいんだというふうになってしまっているのではないか。
- ◆一人の先生が自由な発想で新しい試みをしようとした時に、それを抑えるような方向になっている。その時に先生たちがどんな授業にしようかと議論ができればいいのですが、そういう時間的精神的ゆとりがない。
- ◆中学校の部活も問題ですね。顧問の先生たち、土日も休めない。
- ◆長野県の中学校は、部活の朝練をやめると言ってましたけど。教育委員会は子どもたちの睡眠不足を解消するために朝練をやめなさいと。

(まとめ:浅井)